

# デイトレの、めったに明かされる事 の無い「コツ」について

by デイトレ生存率向上ブログ&メールセミナー

<http://www.traderspage.biz/blog/>

<http://www.seizon.biz/>

### 【アドビ PDF について】

このレポート上に書かれている URL はクリックできます。

できない場合は最新の AdobeReader をダウンロードしてください。(無料)

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

### 【著作権について】

このレポートの著作権は作成者に帰属します。

このレポートの開封をもって、下記の事項に同意されたものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段に訴える場合があります。

こうした不法行為を目にされた方は、ぜひ本レポート作成者までご一報下さいますようお願いいたします。得られた賠償金の 80% を謝礼金としてお支払いする事をお約束いたします。(権利者が複数となった場合は、最初に報告して頂いた方から、先着順で最大 3 名様に均等に分配させていただきます。)

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、誤認や錯覚、不正確な情報等が含まれている可能性を完全に排除することはできません。

この点につきましては、予めご了承下さいますようお願い致します。

このレポートにより、あなたが利益を得る結果となっても、それは一重にあなたご自身の能力によるものであり、このレポートの作成者があなたに報酬を求める事はありません。

同様にして、あなたが利益を得られなくても、或いは損失を発生させる事があるとしても、それは自己責任の問題であり、このレポートの作者がその責任を負うものではない事を、合わせてご理解下さい。

《デイトレの、めったに明かされる事の無い「コツ」について》

(1) 本レポートについて.....	4
(2) テクニカル分析とは? .....	5
(3) テクニカル分析の本当の使い方.....	6
(4) 負けパターン A.....	9
(5) 負けパターン B.....	10
(6) 負けパターン C.....	11
(7) 勝つトレードとは? .....	12
(8) ダマシ.....	14
(9) 後出しジャンケン .....	15
(10) まとめ .....	17
(11) 終わりに.....	21

## (1)本レポートについて

予知能力の無い人間にとって50%を大きく超える勝率を維持するというのは、不可能な事に思えるかもしれません。

ところが、勝っているトレーダーで60%以上の勝率を維持している人なんて、はっきり言ってザラです。

勝っているトレーダーは、何か訓練等によって予知能力を獲得したのでしょうか？

決してそうではありません。

一瞬先が闇である事は、人間である限り誰にとっても同じです。

では、なぜ50%を大きく超えて勝てるのか？

勝てない人には不思議でたまらない一方で、勝てる人にとっては

「普通ですよ (ーoー) y~~~ 」

みたいな感じで、うまく説明するのが難しい場合が多いようです。

このレポートでは、単に私の限られたテクニカル分析の知識について述べるのではなく、勝てない側と勝てる側、それぞれの違いを示すことができないか？という観点から考察してみました。

私には毎日のように質問メールが届きます。

それを読んだり答えたりしてきた中から、**質問の答えを知らないから勝てない**のではなく、そういう質問を**したくなるような発想そのもの**に勝てない理由が潜んでいる場合が少なくないと確信するようになりました。

それがどういう事なのか、本レポートを、ぜひじっくりとお読み頂ければと思います。

## (2)テクニカル分析とは？

テクニカル分析について短く表現せよと言われたら、あなたならどう答えるでしょうか？

**「テクニカル分析とは、過去に繰り返されたパターンの中から何らかの再現性を読み取り、未来を予測する技術・方法である」**

私は、かなり多くの方がこういう表現をするのではないかと想像します。もしかしたら、これで合ってるのかもしれませんが、私の理解とは少し違っていています。

私のブログで「先物市場のテクニカル分析」という書籍を紹介しているのをご存じの方もいらっしゃるでしょう。私のブログで Amazon のアフィリエイトを開始して以来、全売上の 10%以上を占めるダントツの No.1 商品がこの本です。

**(※これらの数字には、中古品の数字も含まれます。)**

約五千元と、書籍でもかなり高額な部類に入るこの本がこれだけ売れたという事は、テクニカル分析への高い関心度を如実に示すものに違いありません。

この本に記載されている、トレンドライン、ヘッドアンドショルダー、ダブルトップ、フラッグとペナント・・・その他様々なテクニカル分析の知識を頭に叩き込むとともに、チャートを沢山見て、更に実戦的な訓練をされている方も少なくないでしょう。

これは非常に大切なことであり、およそテクニカル分析を根拠に利益を得ようと志すからには、必須のステップである事は間違いありません。

しかし、同じ期間同じ程度に知識を頭に叩き込んだ場合でも、勝てる(負ける)度合は人それぞれです。

その違いの理由はどこにあるのでしょうか？

### (3)テクニカル分析の本当の使い方

テクニカル・トレードで勝つ方法を、私が一言で表現するなら、

「後出しジャンケンで勝つ事である」

となります。

テクニカル分析を**未来を予測する方法**のように考えるから、全てが難しくなります。

しかし後出しジャンケンなら、60%だろうが70%だろうが、簡単に勝てそうな気がしてくるのではないのでしょうか？

1枚のチャートに移動平均線やボリンジャーバンドを表示させ、トレンドラインやチャンネルを書き込み、上昇トライアングルと思**(おぼ)**しきパターンを見つけ、支持線と抵抗線を確認し・・・

確かにそういう事もテクニカル分析ですが、それらは単に「エントリーのきっかけ探し」という準備段階の作業にすぎません。

スナイパー**(狙撃手)**が銃の手入れをしたり、ターゲット**(標的)**の日常の行動パターンを下調べしているようなものです。

確かにそれらもスナイパーの仕事のうちではありますが、仕事そのものではありません。

スナイパーは、狙ったターゲットの頭か心臓に銃弾を命中させて、はじめて仕事をした事になります。

デイトレーダーにとって本当に大事なのは、

**株価が上昇(下降)を開始した瞬間に居合わせ、間髪を入れずに注文を出し、狙った価格で約定させる事**

です。一見当たり前のように感じられたかもしれませんが、そう思う方は、自分のトレードと比べてみて、本当に**「あたりまえ」**に出来ているか、よく考えてみる事をお勧めします。

ザラバでいろいろな銘柄のチャートを見て回りますが、その殆どは「エントリーのきっかけ探し」であり、単なる準備段階です。

多数の銘柄をふるいにかけて、エントリーのチャンスが近付いている可能性のあるものがいくつか見つかるかも知れません。しかし、まだこの段階ではエントリーするかどうかはわかりません。

というか、殆どの場合にはエントリーには至らないでしょう。

しかし、決して高くはありませんが一定の頻度で、エントリーのチャンスが近付いていると思いきやチャートに巡り合います。でも、これもまだ準備段階。

スナイパーで言えば、裸眼から照準器に目を移して、ターゲットを狙い始めた段階です。まだ引き金は引きません。

そして更に時間が経過し、遂にチャートが狙ったパターンを描き始めた瞬間、待ってましたとばかり、注文ボタンを押す。

つまり、デイトレーダーの本来の仕事を凝縮して言うと、

チャートが「これから上がり（下がり）ます」というサインを出す少し前からそれを監視する立場に自分を置き、サインが出次第、そのタイミングを逃す事無くエントリーする。

という事になります。

そういう意味では、

テクニカル分析に「未来を予測する」という要素は全くありません。

チャートが「サインを出した」という「過去」にどれだけ間をおかずに狙ったポイント（価格）で約定させる事ができるか？

デイトレの成否は、結局は全てこの一瞬の動作にかかっているのです。

「テクニカル分析の能力さえ上達して、未来が予測できるようになれば、  
もっと稼げるようになるに違いない。」

こういう考え方で、今も努力している方が少なくないはずですが。  
テクニカル分析能力を上達させる事が、トレーダーにとって有利に働く事に  
疑いの余地はありません。

しかしながら、テクニカル分析能力がある水準を超えると未来が見えるよう  
になったり、それだけで稼げるようになる、というのは全くの幻想に過ぎませ  
ん。

テクニカル分析に要する時間の大半は、

「ザラバの限られた時間の中で、稼げる可能性の高いチャンスに自分が居合わ  
せる」

ただその事の準備の為に費やされるという認識はおありでしょうか？

もみ合っても上も下もわからないような銘柄や、じっとして動かない銘柄に用  
はありません。

数日から数週間、長ければ何か月もかかって、あるチャートパターンが形成さ  
れ、その全てが次のザラバで開花・結実しそうな銘柄を見つけ、その場、その  
瞬間に自分が居合わせる事。

それがテクニカル分析の目的の主要部分です。

この事の大切さを理解されているでしょうか？

そしてまた、居合わせただけでは1円にもならない事も・・・？

ここまで読んだだけでは、

「？」

かも知れませんが、でも慌てないで下さい。

このレポートを読み終わる頃には理解できているはずですから。



## (4)負けパターン A

多くの方が「先物市場のテクニカル分析」のようなテクニカル分析の参考書に目を通し、多くの過去チャートでパターンを頭に入れ、ザラバで勉強したようなパターンのチャートが無いか探しまわります。

しかし、テクニカル分析を予測と信じるあまり、頭の中にあるテクニカル・パターンに似たものが見つかる**「サインを出しそう！」**というだけでエントリーしてしまう人がいます。

まだもみ合ってる最中に、ギャンブルでエントリーしてしまうようなのも、このグループのメンバーです。

でもその段階**(=サインが出そうで、まだ出ていない段階)**というのは、抵抗線の寸前で跳ね返される可能性の方が高いのであり、運よく勝てる場合もあるでしょうが、トータルでは負けてしまいます。

テクニカル分析の勉強はしたものの**(そして、理解したつもりでいるものの)**、テクニカル分析上、

### 一番やってはならない事

を毎日繰り返しているのが、この負けパターン A に属する人々です。

#### (※補足)

例えば「ブレイクアウト」という、テクニカル分析の中でも屈指の重要概念があります。抵抗線というものは、基本は「跳ね返される壁」として機能しますが、これが破られれば「ブレイクアウト」となり、その方向に仕掛ければ勝てる可能性が高い、という概念です。

でもこれ、ブレイクアウトした直後に乗っかるから有効なのであって、ブレイクアウトの手前で乗っかるという事は、「抵抗線に体当たりする」という事に他ならず、「イテテッ！」という思いをする可能性が大です。

明確な抵抗線を見つけたら、それはトレードチャンスの発見に違いありません。でもブレイクアウトを予想して、先回りして動くというのは、テクニカル分析を誤解したブタのトレードなのです。

## (5)負けパターン B

パターン A の人がいる一方で、

「サインは出たけど、ダマシじゃないのか？」

と、自分のテクニカル分析の真偽を確かめようとする人もいます。でも、サインの真偽が確かめられたような段階になってからエントリーしても、殆どは**後の祭り**であり、稼げる余地など残っていないのです。

結果が出てしまってから行動を起こして勝てるものなら、誰でも勝ててしまいます。

つまりそれこそ、ブタのトレードの典型です。

勝てるとしても**たまたま**であり、トータルでのマイナスが保証されています。

そんな子供でも解りそうなものですが、お金が絡むとこんな解りきった事にさえ目が曇ってしまうのですから、なんとも恐ろしい話です。

結果が誰の目にも明らかになってから、

「(俺のテクニカル分析は) **やっぱり正しかった。それ急げ!**」

なんてやってみても、望む結果は得られません。

パターン A もパターン B も、文字にすれば「**アホラシイ**」の一言ですが、勝てないトレーダーの殆どは、どちらか一方、あるいは両方を行ったり来たりしているのです。

勝てないトレーダーには、**デイトレ=瞬間芸**である事の認識が不足しています。早すぎず、遅すぎず、まさにピンポイントの「**勝てるタイミング**」で注文するのは、欲望と恐怖を制御し、テクニカル分析の優位性が何であるかを理解した「**狼**」だからこそ可能となるのです。

自分ではちゃんとやっているつもりなのに、なぜかマーケットが意地悪ばかりしてくるように感じてしまう事があります。

しかし、マーケットがあなたを狙って意地悪してくるはずがありません。

あなたが「ちゃんとやってるつもり」なだけで、実際には「ちゃんとやれてない」から負けるのです。それをマーケットのせいに行っているようでは、退場も時間の問題です。

もしあなたが今後、マーケットが意地悪に感じられる事があったら、このレポートをもう一度、新たな気分で読み返してみてください。

**(※) デイトレにおける問題の原因は、テクニカル分析能力の不足ではなく、執行の技能不足の方をまず疑ってみる必要があります。**

## (6)負けパターン C

例えば「急上昇した」という結果が出ている銘柄を見つけた場合、更に上昇し続けている間はエントリーできないけれど、少し下がるとエントリーしてしまう人がいます。

元々「急上昇した」という結果が出てしまっている銘柄には、もう価値が無い場合が殆どです。それでも遅ればせながら、上昇しているところでエントリーすると言うなら、まだトレンドの継続性によって稼げる場合もあります。

しかし、ちょっと下がりだしたところで「買う」というのは全く頂けません。

**(日常生活での「お買い得感」を、マーケットという戦場に持ち込んではいけません。そうとも知らずに毎日沢山のブタが「ルンルン気分」でマーケットに飛び込み、手ぐすね引いて待ち構えている狼たちの餌食になっています。)**

この例に限らず、テクニカル分析の参考書に目を通し、チャートを一瞥見さえすれば、それでテクニカル・トレーダーだと勘違いしている人が結構います。テクニカル・トレードをしているつもりでも、頭の中は「日常生活の人」である訳です。

これは勝てません。

しかも、勉強不足とか努力不足とか、見当違いの理由で勝てないと思ひこむので、出口もなかなか見つかりません。

テクニカルよりも何よりも先に「**マーケット用の思考法**」を理解し、実践する必要があります。

その思考法については、私のブログの記事も参考になると思います。

例) トレードのキモ (シリーズ全6回)

「値ごろ感」でエントリーして、なぜ悪い？

ただ、自分がこの問題を抱えているのかいないのか、自分で気づくのは結構難しいのです。

パターン A でも B でもないと断言でき、しかも収支がマイナスなら、この C について真剣に検討してみたいと思います。

## (7) 勝つトレードとは？

稼げるデイトレとは、**サインが出た**という「過去形」の瞬間から間をおかずに、そのサインが本物かダマシかなんてさっぱりわからないほど早い段階でエントリーできるかどうか？ にかかっているのです。< == (超重要)

早すぎてもいけないし、遅すぎてもいけない、そのタイミングは一瞬しかありません。

しかもその一瞬の意味を理解しているライバルも少なくない為に、指値した板が一瞬にして消失してしまい、空振りに終わる場合も少なくありません。

つまり早い話が、勝てるエントリーを成立させるだけで**難しい**のです。

(ボッサーっとチャートを見ていて、ノロノロと注文の用意をし、恐怖と欲望を秤にかけつくした末にやっとの事でエントリーして、それで尚、勝てるというのは、街を散歩していて、裸で落ちている一万円札を拾うのと同じくらいの珍事だと思って下さい。誰でもたまには珍事に会う事もありますが、それを「デイトレ」と思い込むとドツボにはまりますので、ご注意を。)

(サインとエントリー・チャンスのタイミングをどう定義するかというと、これはまた別の難しい問題です。それはそれで、説明しだせばきりが無いほどですが、とりあえず例えば5分足の時間軸でブレイクアウト・トレードしてるなら、「5分足のローソクがブレイクした状態で終わる事」を見届け、次のローソクの始値をエントリーポイントとして理解して下さい。「終値なんか見なくても、ブレイクしたのは明らか」なんて忙しい場合はこの限りではありません。この例は多少「ゆっくり目」ですが、ダマシ防止に重点が置かれています。ダマシの対策が、エントリーの遥か以前になされている点に注目して下さい。また一方で、ダマシの対策がなされている分、「遅延」のリスクが発生しています。オールマイティのルールなんて存在しません。あなた自身で比較・検証して、よりベターなルールを選んでいく必要があります。エントリータイミングについては、機会があればまた書いてみたいと思います。)

### 「いつも指値した価格で約定できている」

なんていうのは、エントリーが上手というより、多くの場合は単に

### 「負ける為にエントリーしている」

という可能性が高いと思って下さい。

もちろん、大型株などでゆっくり価格が推移するような銘柄の場合は、いつも指値した価格で約定できるでしょうが、もしかしたらそれはデイトレで稼ぐという大前提の前に、

### デイトレーダーの貴重な時間を無駄にしているだけかもしれない？

という疑いを持って下さい。

何のスキルも必要なく、誰でもできる事をやって、それで稼げるほどマーケットがユルイはずがありません。

正しいエントリーをしていれば大型株でも稼げますが、瞬間芸を活かせる銘柄なら、もっと効率よく稼げるかもしれません。

トレードの細部を再度全て点検してみる事をお勧めします。

## (8)ダマシ

「どうすればダマシに合わずに済むか？」

という事をテクニカル分析に求める人がいます。

例えば抵抗線のブレイクアウトを狙うのであれば、将来エントリーチャンスが来る事を想定して、そのチャンスが本物になってくれるか、ダマシに終わる可能性が高いのか、その程度の度合を様々な分析に基づいて判定しようとしています。

その事自体はテクニカル分析の要素でもあり、何ら問題はありません。信憑性の高いチャンスだから大きく勝負したり、リスクが高いため控え目に勝負したり、あるいは様子見を決めたり、そういう裁量があるのは当然の事です。

しかし、いざエントリーの瞬間には、

「これは、ダマシか？本物か？」

なんて思考している時間的余裕はありません。

サインが出た時に何株買う（売る）か、又はサインが出ても見送るのか、その評価と判断はサインが出るかなり前に済ませておくべきものです。

「サインが出たらエントリーする」

と決めたなら、その瞬間の為に発注画面に株数と指値（指値は発注直前までできない場合もあります。エントリーの手順・やり方は人によるところもあるので、「できるだけ事前に」という条件付きとします。）を入れ、じっとサインが出る瞬間まで待ち伏せします。

狙撃銃の照準器の中にある十字の線を「レティクル」と言うそうですが、ちょうどターゲットの心臓めがけてこのレティクルの中心を合わせようと息を止める段階に入ったところでは、

サインが出た瞬間には思考は停止しており、「いざシュート！」の条件が揃えば、単に条件反射的に手が発注ボタンを叩いて発注するのみです。

スナイパーも、レティクルの中心にターゲットの心臓が重なれば、何も考えずにトリガーを引くべきであり、この期に及んで

「このターゲットは別人ではないだろうか？」

とか、



「悪人と聞かされているが、本当は善人なのではないかしら？」

なんて考えてるとしたら、それは準備や覚悟がまるでなっていないへっぽこスナイパーに違いありません。

へっぽこスナイパーが無駄な「思考」をめぐらせている際に、ターゲットは友人と握手を済ませ、悠々とリムジンに乗り込んで、何事もなく立ち去ってしまうでしょう。

## (9)後出しジャンケン

サインが出たら躊躇なく、予定したエントリーを行う。

これはつまり、**後出しジャンケン**です。

相手の動作の癖やパターンを見抜き「ジャン」「ケン」「ポン」の「ジャンケン」までで相手の出す手を見抜き、「ポン」と同時に相手に勝てる手を出します。人間同士のジャンケンで、「ジャン」「ケン」の段階で相手の出す手を読むのは無理ですが、チャートの場合は「ジャン」「ケン」の段階で、相手の出す手が丸見えなのです。問題は「ポン」まで動いてジャンケンが成立する場合も有れば、「ポン」の手前で相手が手を引っ込めてしまう場合もある事です。



成立しないジャンケンでエントリーすれば、負けの可能性大です。  
だから、ちゃんと「ポン」を見極めるまでは、エントリーしてはいけません。

ジャンケンが成立した場合でも、勝つ事もあれば負ける事もあるのは仕方のない事です。

「ジャン」「ケン」の段階で出す手を丸出しに見せてくれる代わりに、たまには騙される場合もある事を、予め覚悟しておきましょう。

いかにサインが過去形に変わってから発注したとしても、ダマシを100%防ぐことなんてできません。

**騙された事を悟ったら、潔く負けを認め（損切り）、すぐに撤退するだけです。**

いいですか？

大事な事なので、もう一回言いますよ。

**騙された事を悟ったら、潔く負けを認め（損切り）、すぐに撤退するだけです。**

これが出来るか出来ないかで、稼げるトレーダーか、稼げないトレーダーかが決まります。

騙される事をいくら怖がっても、トレードする以上は騙される事も必ず有るので、騙された場合の対処法を予め確立しておく必要があります。

**勝つ事しか考えずにトレードし、逆に動いたら「石」になってしまうのがブタ。**

**勝つ事が前提ではあるが、負けた時に打つ手も予め用意しているのが狼。**

この2行の意味を、今ここで噛みしめて下さい。

テクニカル分析なんか全く無視して、「どうにでもしれくれ〜！」と開き直ってメチャクチャなトレードをすると勝率が**0%**になるか？というと、決してそんな事はありません。

機械のように正しくメチャクチャができるなら、その勝率は50%に近いものとなります。**(スリッページや手数料で資金は目減りするでしょうけど・・・)**



それに比べて、テクニカル分析を駆使した後出しジャンケンで、50%の勝率に更に10%を上乗せするくらい、簡単な事だとは思いませんか？

実際、テクニカル分析を勉強し、チャートと真剣に一ヶ月も向き合えば、60%程度の確率で正しいチャンスを見つけるくらいの技能は誰でも獲得でき、また既にそのレベルに達している人も多いと思います。

ところが、60%以上の正確さでチャンスを見つける技能を獲得したとしても、そのチャンスを掴み取る技能は、**また少し別の事**になります。

既に行ったように、チャンスとは目に見えない「奪い合い」の状態であり、その競争に勝ってチャンスを「約定」という具体的な形に変える為の技能を持たない限り、60%以上の確度を誇るテクニカル分析の技能もまた、絵に書いた餅にすぎないのです。

## (10)まとめ

一口に「テクニカル分析」といっても、実戦では2種類の作業が別々に存在する事を常に意識して下さい。

### (1)

勝てる可能性の高いチャンスが起こりそうな銘柄とタイミングを物色する。

### (2)

「サイン」の出そうな**(狙うに値する)**銘柄を特定し、狙ったチャンスが実現する事を想定して指値や株数を決めて発注の準備を済ませ、「サイン」が出た瞬間には一切の迷いなく注文を執行する。

#### (1) は準備です。

何千とある銘柄の中から、次のザラバ中に「サイン」を出す可能性が高くて、しかもダマシにあう可能性の極力低いチャートを選抜します。

要は後出しジャンケンで勝ちやすい相手を探しているのですから、素直そうでトリッキーな挙動の少ない、身振り手振りにメリハリのある・・・そういう相手を探します。

前日の予習は「一番目の粗いザル」で、大雑把にすくい上げます。(集合 A)  
当日の寄付き前は、マーケット全体の方向性や銘柄毎の寄り付きそうな位置等も考慮して、集合 A の中から更に絞ります。(集合 B)  
ザラバ中は、集合 B の中から更に「サイン」が目前に迫っているものを選び出します。(集合 C)  
ここまでがテクニカル分析の (1) です。

ザラバで集合 C の銘柄群を監視していると、「次に「サイン」を出しそうな銘柄」が見つかります。可能ならばもう一度その銘柄について (1) で行った作業全体を見直し、「間違いない」という確信のもと、発注の準備に入ります。

(「間違いない」と言っても、「100%負けない」という意味では勿論ありません。トレーダーとして「やれる事はやった」という心境にすぎません。)

テクニカル的な「サイン」の位置を特定し、指値や株数を注文画面に打ち込み、注文ボタンを押せばよいだけの状態にしてから、その瞬間がくるのを待ち構えます。

「チャートがどうなったら注文ボタンを押すか？」は、既に頭の中にあります。そしてそのタイミングが来たら、他の事は何も考えずに注文ボタンを

「ポンッ」

と押す。これで、

「デイトレードさん、こんにちは！」

です。

トレードでは、どのように手仕舞うかが大切である事は言うまでもありません。しかし、エントリーがまずければ、これを手仕舞の技で挽回する事は不可能です。

「鶏が先か、卵が先か」みたいですが、デイトレでどちらが大切かと言えば、ずばり

「エントリー」

です。

エントリーに優位性が保たれてさえいれば、「手仕舞なんて付け足したいなもの」、と大胆な事を言ってもさほど過言とも思われません。

(まあ「損切りできない」なんてのは論外として、の話ですが・・・)

収支が芳(かんば)しくないのであれば、まずエントリーを検証して下さい。エントリーに問題点が無いのに、収支がマイナスという事は、まずありません。エントリーに問題があるのに、エグジットをどういじくりまわしても、収支の改善は見込めません。

最初は慣れるまで、動きのゆっくりした銘柄でトレーニングして下さい。という事は東証一部の中でも出来高が多めで、日足も分足もきれいな銘柄になります。

(※注) これは、ゆっくり動く銘柄をトレードする場合に限っての話ですが、、指値する板に厚みがあり、今すぐ発注しても10秒後に発注しても同じ約定が得られるなら、10秒後に発注すべきです。現在は売り板がどんどん食われていく状況であっても、10秒後には買い板が食われ始めているかもしれません。状況次第では、発注を中止するという判断ができるかもしれません。デイトレでは、どれだけ「1秒」を大切にできるかで収支が違ってきます。

「デイトレ=瞬間芸」である事を常に意識し、思考をフル回転させる時と止める時のメリハリを区別できれば、次第にテクニカル分析の技量がそのまま収益率に結びついている事が理解でき、更にチャートと睨めっこする事が楽しくなり、更にまたトレードが改善する、という好循環が生まれます。この段階でのトレーニングが不十分なまま、やれ値上がり(下がり)ランキングだ、やれ新興市場だと、欲の皮をつっぱらせるから、遠まわりして疲れ果ててしまうのです。

ゆっくりの銘柄で十分にトレーニングを積み、しかるべき成績が残せるようになったら、新興市場に目を向けても良いでしょう。

動きの速い銘柄とは、ボラティリティの大きな銘柄でもあり、狙撃の難度が増

す分だけ、仕留めた時の収穫も大きくなります。  
標的が移動している場合、発射から着弾までの短い時間に、標的も動いてしま  
います。  
ですから引き金を引く瞬間には、着弾するまでの時間に標的が移動する距離を  
計算して狙いを定める必要があります。  
これをトレードになぞらえれば、

### 必ずしも常に後出しジャンケンだけとは限らない

という事になります。  
でもそれは、静止している（に等しいような）標的を確実にヒットできる訓練  
を積んだ後に考えれば良い事であり、このレポートでは取り上げない事にしま  
す。

まずは「ゆっくり銘柄」で練習する事。  
それが身に付けば、動いている標的の撃ち方も、教わずとも自然にわかって  
きます。  
文字を通しての知識にはおのずと限界があり、経験でしか本当のところはわか  
らないものです。

===== (おススメの教材)

#### Maestro FX

F Xをテクニカル分析で攻略する為の最強のノウハウ！

<http://www.traderspage.biz/j/maestro>

ブログ記事はコチラ！

[http://www.traderspage.biz/blog/ebook/maestro\\_fx/](http://www.traderspage.biz/blog/ebook/maestro_fx/)

=====



## (11)終わりに

以上で、チャートが1枚も出てこないまま、このレポートの主題は書きつくしました。さっと読んでさっと理解できた方もいれば、

「なんだかよくわかんないな〜？」

みたいな方もいるでしょう。

でも、よくわからなかった方こそラッキーです。

他ではまず読めない「[デイトレの重要事項](#)」に今、出会えているからです。

まずい文章で申し訳ありませんが、私が何を言いたいのか、

「俺様が理解してやる」

くらいのつもりで繰り返し読んで下さい。

何か少しでも「得るものがあった」と思えれば、あなたの資金と時間の大きな節約になるはずです。

そして少しでも得るものがあったと思って頂けたのであれば、

デイトレ生存率向上ブログ

<http://www.traderspage.biz/blog/>

でのランキング応援クリックを、ぜひお願い致します。

(=ブログの中で、右の画像を見つけてクリックして下さい。)



By Takayan(2015/10/08)

制作：『デイトレ生存率向上』ブログ&メール・セミナー

メール : [takayan5944@gmail.com](mailto:takayan5944@gmail.com)

ブログ : <http://www.traderspage.biz/blog/>

メールセミナー : <http://www.seizon.biz/>